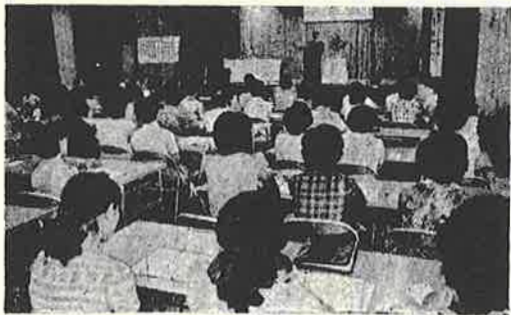


# 協会関係新聞記事



関係者多数を集めて発足した沖縄県小児保健協会

## 小児保健協会が発足

### 研究や知識の普及図る

沖縄にこれまでに小児保健協会の組織はないと研究の正式の発表がなされたが、関係者の努力で二十

八月廿五日、県庁から移転した新庁舎の落成式が、県庁の落成式に併せて、正装で挙足された。

この落成式は、開かれた第一の落成式であり、一晩で落成式が行われ、正装で挙足された。

落成式は、開かれた第一の落成式であり、一晩で落成式が行われ、正装で挙足された。

落成式は、開かれた第一の落成式であり、一晩で落成式が行われ、正装で挙足された。

県厚生部は、沖縄では初めての乳児の無料健康診査を沖縄県小児保健協会に委託して、さる十一月十日から実施して、乳児の保健管理の一層の向上をはかるためにスタートした制度だが、開始が十分徹底してないこともあって受診率は低く、せつかくの制度も生かされてないが、実情、特に那覇市の場合、先に実施した健康診査の受診率がわずかに一五%といった状態の問題を抱えている。ちなみにこれまで実施した南都七村と那覇市の一部における受診率は五五%だった。なおこれまでの健康診査から心臓病など、特に風原、知念三村における受診率は二〇%で、ここまでは胸心の高さを示している。南都七村の検診結果から、心臓病、貧血、股（C）開合、さる十五、十六の両日首里、度もこれでは生かされず、受診率は五三%と低い数字、見られる。検査は市町村単位で引き継ぎ実施されるが、健康管理の向上のためにもこの制度を活用してほしいと呼びかけている。

## 乳児の無料健康調査

沖縄県小児保健協会 仲熊吉雄会長は、さる十一月十日の東風平村を皮切りに乳児の無料健康診査を実施している。十一月中に実施された同村をはじめ南都七村における検診対象者は七百二十二人で、このうち六百五十五人（受診率九一%）が受診した。特に東風平、南風原、知念三村における受診率は二〇%で、ここまでは胸心の高さを示している。南都七村の検診結果から、心臓病、貧血、股（C）開合、さる十五、十六の両日首里、度もこれでは生かされず、受診率は五三%と低い数字、見られる。検査は市町村単位で引き継ぎ実施されるが、健康管理の向上のためにもこの制度を活用してほしいと呼びかけている。

# 心臓病など30人発見

## 南部7村 低い那覇の受診率

健康診査が無料で行われる。南都七村における胸心の高さ、市民への広報、宣伝が十分行き届いていないところに原因があるようだが、せつかくの間に、これまでに健康診査実施状況、理事は「沖縄の場合小児科医師をみると、検診対象者一千五百が少なく、乳児の予防医学的な検診には手が届かなかった。乳児の疾病については早稲期発見、早期治療という観点から無料健康診査が実施されており、乳児の健康管理の向上のためにもこの制度を活用してほしい」と呼びかけている。

南都七村は、さる十一月十日の東風平村を皮切りに乳児の無料健康診査を実施している。十一月中に実施された同村をはじめ南都七村における検診対象者は七百二十二人で、このうち六百五十五人（受診率九一%）が受診した。特に東風平、南風原、知念三村における受診率は二〇%で、ここまでは胸心の高さを示している。南都七村の検診結果から、心臓病、貧血、股（C）開合、さる十五、十六の両日首里、度もこれでは生かされず、受診率は五三%と低い数字、見られる。検査は市町村単位で引き継ぎ実施されるが、健康管理の向上のためにもこの制度を活用してほしいと呼びかけている。

× × ×  
× × ×  
× × ×

# 依然残る遺伝・先天性疾患

# 29.3%が異常児

### 一県小児保健協会の総会で発表一

## 朝食抜き 貧血児童が多い

沖縄県小児保健協会（稲垣隆雄会長）の第三回総会と講習会は、二十六日午後一時から那覇市内の若松ホールで会員約二百人が参加して開かれた。同協会の会員は、医師、看護婦、助産婦、保健婦、栄養士、教師など多彩な陣容で、総会は四十九年度の事業報告、子供の承認、五十年年度事業計画の承認、役員の変更、講習会では各機関からの研究発表があり、締めくくりにとして山内島徳園立岡山病院小児科部長の特別講演「新生児の母乳栄養」があった。



日ごろの研究成果を発表する県小児保健協会の講演会。会員は熱心に聴き入っていた

研究発表は「沖縄県乳児健診事業 疾患は減少の傾向もなく、むしろ「八割、障害四・七割、先天性奇形児」「八重山郡における乳児健診」「一八重山郡における乳児健診」など九題と、陳述報告紹介した。この中で、「珠大小児科」に掲げる「先天性」について発表した田中洋雄小児科医師は「近年、医学の進歩とともに感傷性疾患の死に率はやや減少したが、遺伝性・先天性の疾患は減少傾向もなく、むしろ、形元・三割、その他の奇形四七割、障害別では循環器系（ほとんども先天性疾患）、消化器系が多くなつた」を発表した。また、名護保健所の栄養士、津波朝子さんは、「児童生徒の朝食摂取状況」について発表し、豊後、学校の朝礼や運動中に貧血で倒れる児童生徒が多い。名護市内小中学校千五百十八、四、中学校七百三十人を対象に朝食を抜く児童の割合を発表した。たとえ、小学生三・五割、中学生三九・二割が朝食抜き、朝食をとりない理由としては「食べたくない」「食事する時間がない」「食事が準備されていない」が圧倒的に多かった。

トランスがれる。産期の子供だが、朝食をとりないのは悪い、朝食をさまたげなければいけないので、女性指導員と意見交換をした。

# 赤ちゃんの健康

<3>

前回、母乳がわが子の健康の要諦として述べたが、今回は母乳が人工栄養と併用される場合の注意点を述べたい。

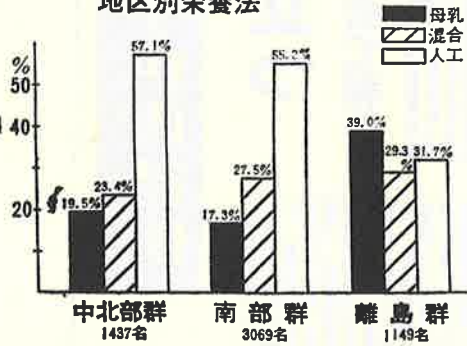
母乳が不足している場合は、母乳と人工栄養を併用する。人工栄養は母乳が不足している場合に、母乳を補うために用いられる。母乳が不足している場合は、母乳と人工栄養を併用する。人工栄養は母乳が不足している場合に、母乳を補うために用いられる。

## 人工栄養に多い感染症 母乳育児でスキンシップを

母乳育児は、母乳が不足している場合に、母乳と人工栄養を併用する。人工栄養は母乳が不足している場合に、母乳を補うために用いられる。

母乳育児は、母乳が不足している場合に、母乳と人工栄養を併用する。人工栄養は母乳が不足している場合に、母乳を補うために用いられる。

### 地区別栄養法



注・沖縄小児保健協会調べ。都市地区はとくに母乳栄養が少ない

母乳育児は、母乳が不足している場合に、母乳と人工栄養を併用する。人工栄養は母乳が不足している場合に、母乳を補うために用いられる。

母乳育児は、母乳が不足している場合に、母乳と人工栄養を併用する。人工栄養は母乳が不足している場合に、母乳を補うために用いられる。

# 赤ちゃんの健康

<21>

三、四百名の子供が、麻疹にかかっている。これは、麻疹の流行である。

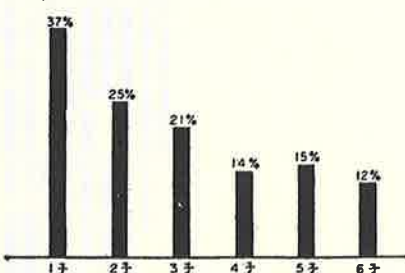
## はしか麻疹

麻疹は、麻疹ウイルスによって引き起こされる。症状は発熱、咳、鼻水、目やに、皮膚発疹などである。

## 似た病気も多い 自己診断は禁物

麻疹と似た病気は、風疹、猩紅熱、伝染性紅斑などがある。自己診断は危険である。

麻疹(639名)医師診断の同胞順%



ハシカの診断を医師によって出された人が意外に少ない(沖縄小児保健協会の調べ)

麻疹は、麻疹ウイルスによって引き起こされる。症状は発熱、咳、鼻水、目やに、皮膚発疹などである。

多くなる親の子供虐待例

過保護も目立つ

県小児保健学会で報告

県小児保健学会第四回会、小児科会は十月廿日午後...



第4回県小児保健学会の総会。乳幼児虐待多...

会場の雰囲気は、小児科医が親の暴挙を止める...

研究報告は、「過保護型虐待」、「産後うつ病」...

に於ける小児虐待の検討結果 (鹿児島大学小児科)

Table showing statistics on child abuse: 年齢別虐待状況 (Age-related abuse status), 出生順位別の虐待状況 (Abuse status by birth order).

児童虐待の被害者(児童)は、母又は生母と同居する...

は、親は、親に虐待された経験があるか、現在も虐待を受けているか...

# 母子総合検診始まる

## 宮古、八重山30日まで

厚生省派遣医  
師と県小児保健  
協会医師団によ  
る昭和五十二年

度の宮古、八重  
山地区の母子総  
合検診が、石垣  
市を皮切りに十  
八日から始まっ  
た。期間は三十  
日まで。対象人  
員は八重山地区  
約三千百人、宮  
古地区が約三千  
三百人で、期間

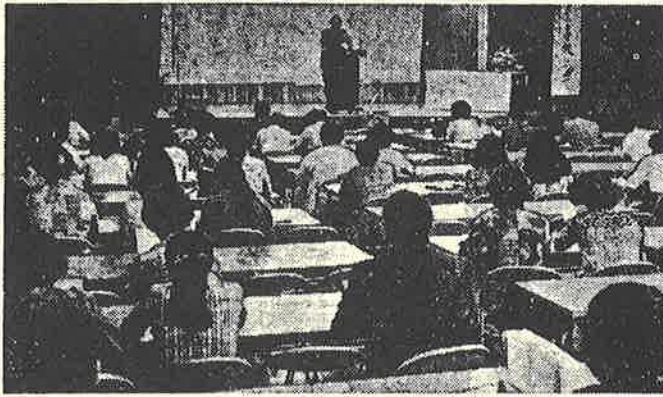
中、与那国、波照間を含む各離島  
を回り、夜は講演会などを開いて  
衛生教育を行う。

検診班は厚生省派遣医師七人、  
県小児保健協会医師四人、東大派  
遣の心理判定員ら合わせて二十五  
人で、県からは小渡予防護長ら三  
人が参加する。検診日程は、十八  
日から二十三日までが八重山地  
区、二十五日から三十日までが宮  
古地区、主にゼロ歳から三歳まで  
の乳幼児が対象で妊婦も両地区合  
わせて約七十人検診する予定。厚  
生省派遣医らによる宮古、八重山  
地区検診は毎年一回行われている

もので宮古が今年で五回目、八重  
山三回目。

# 若年・高齢者に多い 増加傾向の低体重児出産

協く健けん保ほ小こ児に学がく会かい県けん



低体重児問題や子供の事故についての研究発表などが  
あった県小児保健協会の総会と学会（若松ホール）

沖縄県小児保健協会（安本政  
彦会長）の第五回総会と学会が、  
那覇市松山の若松ホールで開か  
れ、保健婦や学生ら関係者約七十  
人が参加した。学会では、低体重  
児問題、乳児栄養法、子供の事故  
死などに関する八題の研究発表が  
あったが、この中で県小児保健  
協会の高江洲昇県予防護職員  
は、全国一高い県内の低体重児出  
生率について、これまでの統計資  
料を基に実態を明らかにした。ま  
た、稲福小児科医院の稲福盛隆医  
師は、乳幼児の事故死を取り上げ  
「事故による死亡率は全国平均よ  
り高く、しかも本土は近年増加  
傾向にある。特に、水死は全国平  
均よりかなり高い」と指摘し、四  
親の注意、環境整備の必要性を喚  
起した。

【沖縄県における低体重児の出  
生率について】 体重二千五百  
g以下の低体重児は、内部機能が  
未熟な場合が多く、病率や死亡  
率が高くなる傾向にある。全  
国平均が急激に減る傾向にあるの  
に對し、県内では逆に増加傾向を  
示している。また五十年度の低体重  
児出生率は八・二割で、全国平均  
の五・七割よりかなり高、全国  
一だった。

昭和四十八年から五十年度までの  
低体重児出生率を地域別に見ると、  
北城、八重山、本島周辺離島  
などが沖縄全体の平均より高かっ  
た。また、母親の年齢を見ると、  
十九歳以下の若年出産と四十歳以  
上の高齢出産に、目立って低体重  
児が多い。報告者の高江洲氏は  
「出産年齢のほか、妊婦の健康状  
態、生活環境などが影響している  
と思われる」と言っている。

【子供の事故死について】 稲  
福医師は、過去の新聞事例や衛生  
統計表をから十四歳までの子供  
の事故死について調べたが、その  
結果、①本土では減少傾向にある  
のに沖縄では逆に事故による死亡

率が高くなっている。②十万人当た  
りの事故死亡数は全国平均より高  
い。③中でも最も死は全国平均より  
かなり高い。④元々かなりわかつ  
た。昭和五年の人口十万人当た  
りの事故による死亡数は全国平均  
一五・五に對し、沖縄は二三・  
三、中でも、てき死は、一歳から  
四歳までが、全国平均一五・二に  
對し一七・七、五歳から九歳まで  
が四・八に對し六・一、十歳から  
十四歳までが二・〇に對し八・三  
と、各年齢階層とも全国平均より  
かなり高くなっている。

死亡場所を見ると、五、九歳、  
十一、十四歳の年齢層とも海の事  
故が最も多く次いでため池、川の  
順。しかしゼロ歳児では海での事  
故一、一四歳児ではため池での事  
故が最も多いことから稲福医師は  
「海に囲まれた環境だということも  
あるが、身の周りの環境が整備  
されていないことも大きな原因  
だと指摘している。

あせも  
かゆみ  
ヒリガ

# 夜泣き、オネシヨは当然

母子保健会 発想の転換強調



母子の健康をえようと、母子保健会が主催した「第一回 母子保健推進伝達研究会」(昨日)に、日ごろ母子保健に着手している助産婦、保健師、看護士ら本母子生助成会を共催、沖縄県を百六十人が詰めかけ、講師の

熱心な話を傾け、メモを取っていた事案。

研究会は演壇が主役で三氏が登壇した。演壇と講師は、「沖縄県の母子保健の現状」(奥田橋探隆 部予防課長・小畑有明氏、「産褥期の家族計画」(沖地母性保健協会理事・砂川勝美氏、「最近の育児」(東京都立府中病院長・野野村氏)。

野野村氏に「二歳前後の幼児の育児について述べた」「一般に人間の記憶は三歳頃からいらいかない。従って、しつけとか教育は三歳以後の段階だ。それまでは、親や家族が人間の立場をいかに作つてやるかが大事。三歳四歳を過ぎ、子どもが自立するための基本的なものを作つてやるべきだ」と述べた。

「夜泣き」「オネシヨ」などの単語が聞かれない。われわれは驚きに振り回されているのではない。夜泣きしるオネシヨにしようとは、発想の転換を強調した。

年(昭和55年)4月13日

日曜日

沖 報 週 二



母子保健などについて研究発表した県小児保健協会の総会

県小児保健協会の第八回総会が、二十日午後二時から、那覇市のパシフィックホテルで開かれ、約百五十人の参加者で、県小児保健協会の研究発表が行われ、野野村氏がナグリーブ総行っ

## 約 一割が未熟児

離島 貧困な医療事情反映

小児保健協総会

最田氏によると、県内保健協会の調査によると、県内には、昭和五十一年の調査結果によると、新生児の出生数は、約一万人、そのうち未熟児は約一割、約千名に達している。これは、全国的に見ても、かなり高い割合で、未熟児の出生率が高いとされている。これは、離島の医療事情が、貧困な状態にあることを示している。最田氏は、この状況を改善するためには、医療設備の充実と、医療従事者の増強が必要であると指摘している。

# 親子の絆に重要な母乳

平山・東大教授の育児講演会



講演する平山教授

「これからの育ちのあり方をテーマに、東京大学平山教授の育児講演会（沖縄県小児保健協会、琉球新報社主催）が、二日、琉球新報ホールで開かれた。平山教授は「ワクチンの開発で感染症はほとんど予防できるようになった。これからの小児保健は、健康の増進が目標」として、そのなかには、生まれる前からの「質」した育児姿勢が重要だと強調した。平山教授の講演のなかから「母乳の重要性」について紹介しよう。

## 人工栄養に勝る

### 殺菌力は牛乳の300倍

「多くの母親の方が母乳の指導で迷いやすい表現をしています。『母乳にはビタミン』や『母乳には鉄分』など、最近母乳をすすめる運動が盛んになってきているが、『母乳は赤ちゃんの健康のためだけに』と、親子の心のままな作るうえで重要な」と平山教授は強調する。

また、第一に栄養的に母乳は人工栄養に勝る。人間の赤ちゃんと比べると、母乳は、赤ちゃんのお腹で一〇〇％吸収される。人工栄養は、そんなに母乳に及びません。しかも母乳には、母乳の成分が、それが赤ちゃんの

再び見直されるようになってきた。人間の子どもだけが人間の乳で育つのが当然だが、母乳の長さが科学的に証明されているようになった。平山教授は、母乳がいかに理由について次の点をあげて説明した。

第一の理由は、母乳には免疫物質が含まれている。ハイロウイルスを殺す力が牛乳の三千倍もある。母乳を与えることで母乳の中にしみ込んである免疫物質が生まれ、かなりの赤ちゃんに感染から防ぐことができる。医学の進歩で感染症による病気の数は減ったが、身近なところで、母乳を育てた赤ちゃんは、母乳を育てた赤ちゃんは、カゼを引きにくいといわれている。

第二の理由は、母乳には免疫物質が生まれ、かなりの赤ちゃんに感染から防ぐことができる。医学の進歩で感染症による病気の数は減ったが、身近なところで、母乳を育てた赤ちゃんは、母乳を育てた赤ちゃんは、カゼを引きにくいといわれている。

第三の理由は、母乳には免疫物質が生まれ、かなりの赤ちゃんに感染から防ぐことができる。医学の進歩で感染症による病気の数は減ったが、身近なところで、母乳を育てた赤ちゃんは、母乳を育てた赤ちゃんは、カゼを引きにくいといわれている。

第四の理由は、母乳には免疫物質が生まれ、かなりの赤ちゃんに感染から防ぐことができる。医学の進歩で感染症による病気の数は減ったが、身近なところで、母乳を育てた赤ちゃんは、母乳を育てた赤ちゃんは、カゼを引きにくいといわれている。

第五の理由は、母乳には免疫物質が生まれ、かなりの赤ちゃんに感染から防ぐことができる。医学の進歩で感染症による病気の数は減ったが、身近なところで、母乳を育てた赤ちゃんは、母乳を育てた赤ちゃんは、カゼを引きにくいといわれている。

「母乳が赤ちゃんの育ちにとって大切なことですが、母乳がでない母親は、せめて赤ちゃんを胸に抱いて顔をのぞき目と目を合わせ、話しかけながらミルクをやって下さい。こぼれ知らぬ赤ちゃんに話しかける必要があるのだと思う方もいるでしょう。

「母乳が赤ちゃんの育ちにとって大切なことですが、母乳がでない母親は、せめて赤ちゃんを胸に抱いて顔をのぞき目と目を合わせ、話しかけながらミルクをやって下さい。こぼれ知らぬ赤ちゃんに話しかける必要があるのだと思う方もいるでしょう。

「母乳が赤ちゃんの育ちにとって大切なことですが、母乳がでない母親は、せめて赤ちゃんを胸に抱いて顔をのぞき目と目を合わせ、話しかけながらミルクをやって下さい。こぼれ知らぬ赤ちゃんに話しかける必要があるのだと思う方もいるでしょう。

「母乳が赤ちゃんの育ちにとって大切なことですが、母乳がでない母親は、せめて赤ちゃんを胸に抱いて顔をのぞき目と目を合わせ、話しかけながらミルクをやって下さい。こぼれ知らぬ赤ちゃんに話しかける必要があるのだと思う方もいるでしょう。

「母乳が赤ちゃんの育ちにとって大切なことですが、母乳がでない母親は、せめて赤ちゃんを胸に抱いて顔をのぞき目と目を合わせ、話しかけながらミルクをやって下さい。こぼれ知らぬ赤ちゃんに話しかける必要があるのだと思う方もいるでしょう。

# 盛り沢山の研究成果を発表

## 県内外から那覇で初の日本小児学会 千五百人

第二十九回日本小児保健学会が五日午前時半、那覇市民会館、ゆんばい那覇教育会館、那覇市立不乳小開校した。小児保健の向上目的に毎年開いているので、沖縄の開催は初めて。二日間の日程で、山多き各機関から小児保健関係者約千五百人、県内も五百人、八重山各島からも約五百人、関係者参加した。

「二人の子実態調査」を主任とする報告があった。昨日の参加者は医師、歯科医師、保健婦、看護婦、健士、栄養士、保母、養護教諭、県外から六百八人、県内も五百人、八重山各島からも約五百人、関係者参加した。

習内省も自立し、社会性、身体と健康、基本的な生活習慣を多岐にわたっていることがわかった。午後からは球技があり、ハワイ大学の徐徳教授が「カルシウムと小児保健」、県小児保健協会の知念氏が「沖縄の小児保健」と題し講演、その後「成人予防のための小児保健」と題するシンポジウムが行われた。

「二人の子実態調査」を主任とする報告があった。昨日の参加者は医師、歯科医師、保健婦、看護婦、健士、栄養士、保母、養護教諭、県外から六百八人、県内も五百人、八重山各島からも約五百人、関係者参加した。

「二人の子実態調査」を主任とする報告があった。昨日の参加者は医師、歯科医師、保健婦、看護婦、健士、栄養士、保母、養護教諭、県外から六百八人、県内も五百人、八重山各島からも約五百人、関係者参加した。

習内省も自立し、社会性、身体と健康、基本的な生活習慣を多岐にわたっていることがわかった。午後からは球技があり、ハワイ大学の徐徳教授が「カルシウムと小児保健」、県小児保健協会の知念氏が「沖縄の小児保健」と題し講演、その後「成人予防のための小児保健」と題するシンポジウムが行われた。

### しつけは親の責任

#### —那覇市で日本小児保健学会開く— 保育、医療で研究発表

那覇市日本小児保健学会が三日から五日の日程で那覇市市民会館で開かれ、同学会沖字のしつけと教育についての講演が、この初めに、那覇市民会館ホールで開かれ、同学会沖字のしつけと教育について講演した。同学会沖字のしつけと教育について講演した。同学会沖字のしつけと教育について講演した。

「二人の子実態調査」を主任とする報告があった。昨日の参加者は医師、歯科医師、保健婦、看護婦、健士、栄養士、保母、養護教諭、県外から六百八人、県内も五百人、八重山各島からも約五百人、関係者参加した。